



経営指針を創る会特集



経営指針を創る会特集
「経営指針」で未来が見えてきた
経営指針とは?
世界でも注目される
「理念」の大切さ!
第35期「経営指針を創る会」のご案内



DoYu Now

▼ある社長が「理念では飯が食べない」とおっしゃいました。これはとりあえず「食えれば」よしで、それ以上の事は考えなくてもよいと社員に言っているのと同じことだという事に気づいていないのかも知れません。

▼中小企業を取り巻く環境は、激変しています。これは「とりあえず食えればよし」程度の感覚で乗り切れるものではありません。会社と社員がわが社の存在意義をしっかりと理解する必要があります。そしてさらに大切なことは、「経営理念」の下、会社と社員がともに力を合わせて計画の実践に臨むことです。「では、どうすれば食えるのでしょうか?」「社長「そりゃー、きちんと戦略を作って、それを必死でやればええんや」「誰がそれをやるのでしょうか?」「そりゃー、社員に決まるとる」「御社では、全社一丸となって、取り組まれているのでしょうか?」「社長「……」もしかすると「理念では飯が食べない」と言われる社長の本音は「そんな難しくして、面倒な事するのがいや」なのかも知れません。社長、まずあなたが変わりますか?」

第35期「経営指針を創る会」のご案内

「経営理念を軸とした指針経営」と「人間尊重の経営」が一層大切になってきています

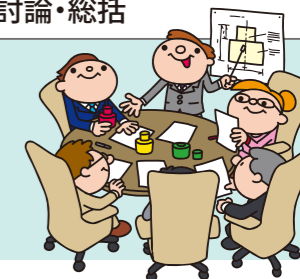
産業の空洞化、少子高齢化、地域経済の疲弊、増税などによる国民購買力の後退など今後の経営環境は一層厳しさを増していくことが予想されます。そのような環境に負けず自社をたくましく維持・発展させていくためには、同友会が提唱する「経営理念を軸とした指針経営」と「人間尊重の経営」が一層大切になってきています。是非、滋賀県唯一の本格的な経営者の道場＝「経営指針を創る会」にご参加下さい。

「経営指針を創る会」とは

自社の経営の軸となる「経営理念」を策定し、「経営理念」を実現するための「方針」(戦略)、「計画」(具体的年度計画)とあわせた「経営指針書」を作成します。先輩経営者が手弁当で、お手伝いします。

日 程	2014年3月19日(水) 18:00～21:00	オリエンテーション
	2014年4月18日(金) 10:00～19日(土) 12:00	第1講:社員との関係(労使見解)『経営理念検討シート』討論
	2014年5月17日(土) 10:00～17:30	第2講:何のために経営するのか?『経営理念』を深める
	2014年6月21日(土) 10:00～17:30	第3講:外部・内部環境の分析から経営戦略づくりへ
	2014年7月26日(土) 10:00～17:30	第4講:中期経営方針(戦略)の立案
	2014年9月27日(土) 10:00～17:30	第5講:『経営指針書』をまとめる
	2014年10月25日(土) 10:00～19:30	第6講:『経営指針書発表』最終討論・総括

費用 ● ホテルラフォーレ琵琶湖
費用 ● 13万円(会場費・食事代・資料代含む。全講受講が原則です。)
参加資格 ● 滋賀同友会会員、または後継者



参加お申込み用紙

第35期「経営指針を創る会」への参加を申し込みます。(FAX 077-561-5334)

支 部 _____ 会社名 _____

氏 名 _____ E-mail _____

電 話 _____ FAX _____

「経営指針」で未来が見えてきた

「創る会」は経営者の
スタートライン



滋賀ビジネスマン株式会社
代表取締役 田井勝実 氏
(第25期受講)

経営指針を創る会は私にとつて経営のスタートラインです。経営という意味を解らずに後継者ということに入社し、5年間営業現場で働いてきました。そろそろ経営についても学びたいと漠然と考えていたとき同友会を紹介頂きました。そこで経営理念の大切さを説明戴き、私も是非理念を掲げたいという思いで入会と同時に「創る会」に参加しました。当時の私は理念の意味も知らず、理念を創ってもらえる会と考えていましたので、「創る会」での話は理解できないことばかりでした。

OB 団への参加を誘って頂きました。先輩や仲間を支えられ、経営指針を発表して5年目を迎えました。発表したからこそ見えてくる新たな問題、その解決のヒントは「創る会」にあります。自身の歩みは決して早くはありませんが、掲げた理念の実現に向けて少しずつ歩んでいます。同友会の本流・経営の真髄は「創る会」にあります。卒業生の方々も是非ご参加下さい。



株式会社プライウッド・オウミ
代表取締役 太田宗男 氏
(第33期受講)

経営指針を作る以前、私は仕事に「閉塞感」を感じていました。

従業員と共に考え、
学びをえた経営指針の
成文化

当時弊社には経営指針は無く、会社組織として目指す目標や到達点も無く、その先の未来が見えませんでした。この現状を打破すべく、第33期経営指針を創る会を受講しました。境遇の違う異業種の方、指針創りに悩む同期生、講師をして頂いている諸先輩方からのアドバイスやご指摘を受け、共に学び、気付きと発見の連続で大いに刺激を受けました。従業員と共に課題に取り組み、弊社が面している問題や課題、そして弊社の特長等を再認識し、経営指針、理念の成文化へ役立てました。本心で考え語り合い、思っていた以上に真剣に取り組み、自社や自分自身を見直す良き時となりました。

経営指針、理念が出来てから、体感が生まれた今は、従業員と自社の成長が楽しみです。自分や自社の使命や課題が明確になりました



株式会社福月
専務取締役 福井雅之 氏
(第33期受講)

私は、同友会に入会してから例会での有意義な時間を過ごすことに満足していました。しかし、経営状況や経営環境に対する不安は一向に拭えない日々。それもそのはず、知識は増えても自分や自社にうまく当てはめることができていなかったのです。小手先の変化ではブレが生じ、自分も社員も迷っていました。せつかく学んだものを上手く発揮するには何が必要なのか、足りないものは何なのか。そんな時、まわり

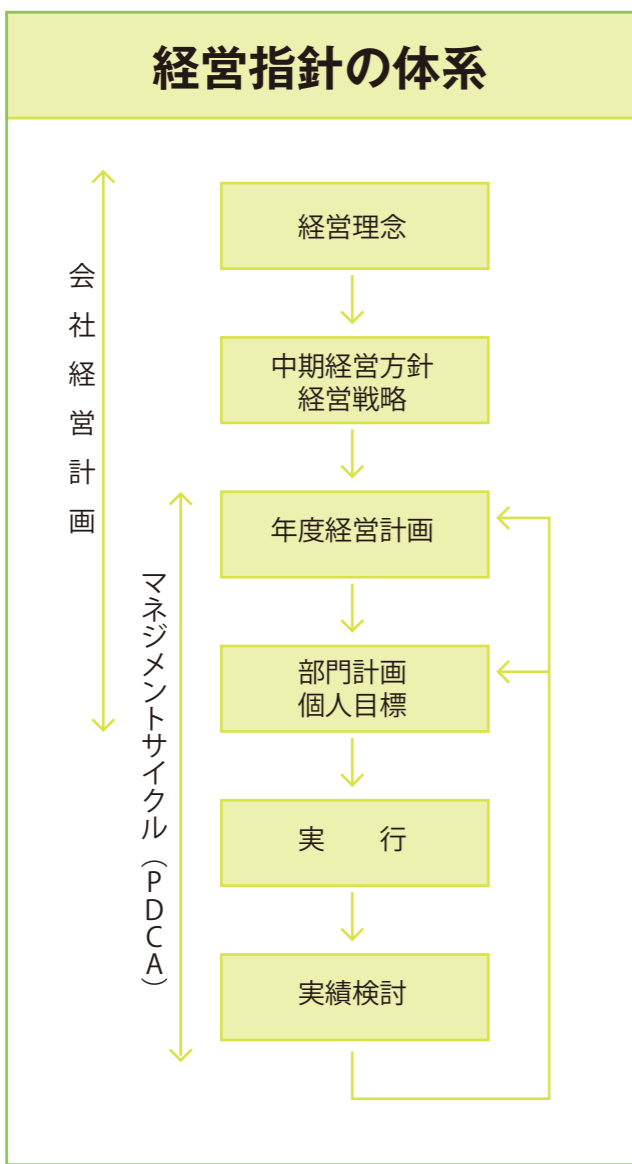


経営指針とは？

「何のために経営するのか？」と言う、自社の存在理由を明らかにする「経営理念」は会社を単なる人の集まりから、生命力を持った有機体にするための「魂」のようなものと言えるかも知れません。しかし、「理念」が出来たから、会社が着実に変わって行くほど単純なものでもありません。「理念」の実現に向けて自

社の内部環境、外部環境などを分析し、適切な方針(戦略)を立てる必要があります。また、方針を立てただけで、実際には日常業務に忙殺されて、同じところをぐるぐる回っているだけでは会社は、一向によくならないと思います。このため同友会では「経営理念」+「中期経営方針(戦略)」+「年度経営計画」の3つを一体とし

て作成、実践することを推奨しています。この3つをまとめ、たものを「経営指針書」と呼んでいます。経営者をはじめ、全社員が常に「経営指針書」を意識して、それに基づき、業務、行動、思考を日々積み重ねることが「良い会社」になっていくための必須の条件だと考えています。



世界でも注目される「理念」の大切さ！

スウェーデンの生物学者デービッド・イングバル博士の「未来の記憶」

スウェーデンの生物学者であるデービッド・イングバル博士は、「未来の記憶」という興味深い概念を提唱しています。人間の脳には絶えず未来を予知しようとする力があり、人間は本能的に未来への行動計画を想像し、作り上げ、それは前頭葉に記憶されていくという説です。で、人間はその未来への記憶に合致する行動を意味あるモノとして受け止め、積極的に取り組んだり、努力したりするとします。未来と現在の間を行き来しながら、自分の行動を最適化するのだと言えます。組織の中に未来の記憶を作り上げる環境があって初めて、働く人は積極的にスキル向上に励んだり、高い意識を持って仕事に向き合ったりできるという

ことなのかも知れません。確かに私たちは、自分で意識することなく、脳が勝手に未来の事を考えることがあります。その結果必要以上に不安になって最悪の場合、神経をやられてしまったり、逆に希望に励まされて厳しい環境を克服する驚異的な力を発揮したりするのではないのでしょうか?しかし、正しい未来を見通すためには「正しい情報」と「正しい考え方」が必要です。同友会の進める「経営理念」(正しい考え方)と「経営指針」(正しい情報による正しい計画)こそが、人間の特性にもっとも適した力になるのでしょう。

